

平成 23 年度 春期  
システム監査技術者試験  
午後Ⅱ 問題

試験時間

14:30 ~ 16:30 (2 時間)

## 注意事項

1. 試験開始及び終了は、監督員の時計が基準です。監督員の指示に従ってください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
3. この注意事項は、問題冊子の裏表紙に続きます。必ず読んでください。
4. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
5. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1 ~ 問 3
選択方法	1 問選択

6. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
  - (1) B 又は HB の黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
  - (2) 受験番号欄に、受験番号を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されません。
  - (3) 生年月日欄に、受験票に印字されているとおりの生年月日を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
  - (4) 選択した問題については、次の例に従って、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。

〔問 2 を選択した場合の例〕

選択欄	問 1	問 2	問 3
	1 問選択		

なお、○印がない場合は、採点の対象になりません。2 問以上○印で囲んだ場合は、はじめの 1 問について採点します。

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。  
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

**“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”の**

**記入方法**

あなたの所属部門と，あなたが担当した主なシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要について記入してください。

①～⑪の質問項目に従って，記入項目の中から該当する番号又は記号を○印で囲むとともに，（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものをすべて○印で囲んでください。

## 問1 システム開発や運用業務を行う海外拠点に対する情報セキュリティ監査について

昨今、多くの日本企業が海外に進出し、事業活動の範囲を拡大している。特に、安価な労働力やおう盛な消費意欲を求めて、アジア諸国に進出するケースが多い。海外に進出するときには、事業を短期間で軌道に乗せるために、現地企業と提携したり、安定した事業基盤を構築するために、現地に支店や子会社を設立したりすることが多い。

このような海外進出の一環として、システム開発や運用業務を海外拠点に移す企業も珍しくない。システム開発や運用業務では、経営、人事、財務、営業などに関する企業情報、製品の技術情報などを扱うことが多い。場合によっては、顧客の個人情報にアクセスすることもあるので、海外拠点でも国内拠点と同様に様々な情報を適切に管理しなければならない。

海外拠点は、文化、商慣習、従業員の労働条件、法規制、電力やネットワークなどの社会的インフラなど、様々な面で日本とは状況が異なるので、システム開発や運用業務を海外拠点で行う場合にはこれらの面に留意する必要がある。

システム監査人は、海外拠点に対して情報セキュリティ監査を実施する場合、海外拠点に特有のリスクやコントロールを十分に考慮し、監査の体制や方法を工夫する必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

**設問ア** あなたが関係する組織において、システム開発や運用業務を海外拠点で行っている、又は海外拠点で行うことを検討している場合、その背景、目的及び実施状況や検討状況について、800字以内で述べよ。

**設問イ** 設問アに関連して、システム開発や運用業務を海外拠点で行う場合、情報セキュリティ上の想定されるリスク及びコントロールについて、海外拠点特有の状況を踏まえて、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

**設問ウ** 設問イに関連して、システム開発や運用業務を行う海外拠点に対して、情報セキュリティ監査を効率よく、効果的に実施するために留意すべき事項を、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

## 問2 ベンダマネジメントの監査について

今日、組織における IT 利用の多様化に伴い、組織は機器やソフトウェア、及びシステムの保守や運用などの様々なサービスをベンダから調達するようになった。また、ASP、SaaS などの普及によって、組織の各業務部門は情報システム部門を介さずにサービスを利用することが容易になった。その結果、取引するベンダの数が増え、財務基盤や内部管理態勢が弱いベンダと取引を行う可能性も高くなっている。

このような状況において、組織が利用するシステムやサービスの継続性、セキュリティ、品質を適切な水準に保つことが難しくなっている。また、ベンダ及びその製品・サービスの選定や契約が部門ごと、担当者ごとに行われると、調達費用が割高になる可能性もある。

これらの問題を解決するためには、ベンダマネジメントを組織横断的に行うことが有効である。例えば、組織共通の基準や手順に基づいて、ベンダ及びその製品・サービスの選定や契約のための評価及び導入後のモニタリングを行い、評価やモニタリングの結果を組織横断的な品質向上や経済的な調達につなげる取組みなどが挙げられる。

システム監査人は、個々のベンダ及びその製品・サービスの調達や管理の監査に加えて、ベンダマネジメントの仕組みやその運用状況の監査を組織横断的な観点から行う必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

**設問ア** あなたが関係する組織の概要及び IT にかかわるベンダマネジメントの状況について、800 字以内で述べよ。

**設問イ** 設問アに関連して、組織横断的な観点からとらえたベンダマネジメントの問題点及びそれらの問題点から生じるリスクについて、700 字以上 1,400 字以内で具体的に述べよ。

**設問ウ** 設問ア及び設問イに関連して、ベンダマネジメントの監査を組織横断的な観点から行う場合の監査手続について、700 字以上 1,400 字以内で具体的に述べよ。

### 問3 システム開発におけるプロジェクト管理の監査について

今日、組織及び社会において情報システムや組込みシステムの重要性が高まるにつれ、システムに求められる品質、開発のコストや期間などに対する要求はますます厳しくなっている。システム開発の一部を外部委託し、開発コストを低減する例も増えている。また、製品や機器の高機能化などと相まって、組込みシステムの開発作業は複雑になりつつある。

このような状況において、システム開発上のタスクや課題などを管理するプロジェクト管理はますます重要になってきている。プロジェクト管理が適時かつ適切に行われないと、開発コストの超過やスケジュールの遅延だけでなく、品質や性能が十分に確保されず、稼働後の大きなシステム障害や事故につながるおそれもある。

その一方で、開発するシステムの構成やアプリケーションの種類、開発のコストや期間などはプロジェクトごとに異なるので、プロジェクトにおいて想定されるリスクもそれぞれ異なる。したがって、システム開発におけるプロジェクト管理を監査する場合、規程やルールに準拠しているかどうかを確認するだけでは、プロジェクトごとに特有のリスクを低減するためのコントロールが機能しているかどうかを判断できないおそれがある。

システム監査人は、このような点を踏まえて、情報システムや組込みシステムの開発におけるプロジェクト管理の適切性を確かめるために、プロジェクトに特有のリスクに重点をおいた監査を行う必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

**設問ア** あなたが携わった情報システムや組込みシステムの概要と、そのシステム開発プロジェクトの特徴について、800字以内で述べよ。

**設問イ** 設問アで述べたシステム開発のプロジェクト管理において、どのようなリスクを想定すべきか。プロジェクトの特徴を踏まえて、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

**設問ウ** 設問イで述べたリスクに対するプロジェクト管理の適切性について監査する場合、どのような監査手続が必要か。プロジェクト管理の内容と対応付けて、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

[ メモ用紙 ]

[ メモ用紙 ]

7. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。

(1) 問題文の趣旨に沿って解答してください。

(2) 解答欄は、“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”と“本文”に分かれています。“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”は、2 ページの記入方法に従って、全項目について記入してください。

(3) “本文”は、設問ごとに次の解答字数に従って、それぞれ指定された解答欄に記述してください。

・設問ア：800 字以内

・設問イ：700 字以上 1,400 字以内

・設問ウ：700 字以上 1,400 字以内

(4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。

8. 退室可能時間に途中で退室する場合には、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退室してください。

退室可能時間	15:10 ~ 16:20
--------	---------------

9. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。

10. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。

11. 試験中、机の上に置けるもの及び使用できるものは、次のものに限ります。

なお、会場での貸出しは行っていません。

受験票、黒鉛筆及びシャープペンシル (B 又は HB)、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計 (アラームなど時計以外の機能は使用不可)、ハンカチ、ティッシュ

これら以外は机の上に置けません。使用もできません。

12. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。

13. 答案用紙は、いかなる場合でも提出してください。回収時に提出しない場合は、採点されません。

14. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。

なお、試験問題では、™ 及び ® を明記していません。

©2011 独立行政法人情報処理推進機構